

YOSHIKOのファッション通信

骨格タイプ診断で変わる印象 ～骨格ナチュラルさんの場合～

BEFORE



AFTER



撮影協力：おしゃれの店マルミツ

骨格タイプ診断ってなに？

骨・体格・質感を見せてもらい3タイプに分けて診断するシステムです。

▼ ストレート

上重心で腰位置が高くVネックやタイトスカートなどシンプルな洋服が似合う。

● ウェーブ

下重心でくびれがあるためウエストシェープのワンピースやゆるふわな洋服が似合う。

■ ナチュラル

フレーム感があり、いかり肩。長方形のストンとしたタイプなので丈が長めの重ね着が似合う。

骨格タイプナチュラルさんは重ねれば重ねるほど、似合うのが特徴です。お手持ちのジャケットやネックレスを2点ほどプラスするだけで素敵なコーディネートになりました。ジャケットの袖を少し捲り上げるだけで、おしゃれですね。



TANTO

No.52

発行
令和4年9月10日

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261(年4回発行)

コロナに負けない！

安浦中学校3年生の夏

中学校最後の大会に向けた、3年生キャプテンの意気込み、想いを取材してきました。



チーム団結、思いを一つにして悔いの残らないような大会にする。一人一人努力し、技術面を磨けるように頑張る。野球部：片山さん

最後の大会に向けて一人一人が士気を高めていこう。そして3年生が引退してもみんなが頑張る！剣道部：岡西さん

練習した成果を発揮できるように頑張りたいです！サッカー部：沖田さん

いつもの自然体で試合をたのしめます！上手くなりますように。剣道部：中島さん

最後の大会は今まで練習してきた成果を発揮して悔いの残らないように頑張りたい。1年生も2年生も一緒に練習できる時間は残り少ないけど頑張ろう。バスケット部：岡田さん

最後のコンクールで最優秀賞を目指して日々の練習を全力で取り組み、悔いのない演奏にしたい。吹奏楽部：岡本さん

僕たちが引退した後も、みんなで協力して部を盛り上げてください。駅伝まであと少しだからみんなで頑張ろう！陸上部：安本さん

最後の大会で自分達のバレーをして勝てるように頑張ります。みんな引退までよろしくね！バレー部：大林さん

最後の大会に向けて、今まで練習してきた事を全て出さされるよう頑張りたいです。後輩たちへ、練習などを頑張る、良い結果が出せるように頑張ってください。ソフトテニス部：廣川さん

中学校生活3年間を、コロナウイルス蔓延のために制限されることが多かった、今年卒業の3年生。残りわずかの学校生活も、コロナに負けず素敵な時間にしてくださいね。

宝くじ助成を活用しました！



▲小林自治会長

中畑自治会では、視聴覚・空調設備や発電機、テントなどを整備しました。これは、一般財団法人自治総合センターが、宝くじの社会貢献広報事業として、町内会など地域住民のコミュニティ組織が行う活動に必要な施設や設備の整備に対し助成を行う、一般コミュニティ助成事業を活用したものです。中畑自治会では、今後、これらの支援を地域住民の交流や高齢者支援活動に役立てていきます。



◀▲整備された視聴覚設備や発電機など

南薫造記念館に奥田元宋作品がやってきた!!



▲奥田元宋《遠山早雪》



▲南薫造《農村午後》

呉市制120周年記念特別展

「南薫造と奥田元宋一心に描く風景」を開催中。ぜひご鑑賞ください！

会期：11月27日(日)まで ※火曜日休館

やすうら 記憶遺産

第25話

竜王社の松 「内海たんと節」に詠まれた風景

* 竜王社は、内海の竜王山にあった社。



「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲（1904-1994）の400枚以上にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取組みです。
まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016(平成28)年No.28／9月号から連載を始め、今回で25回目のお話となります。

昭和の頃、「ご当地ソング」という、地方の名物や景勝地を歌詞に盛り込む歌謡曲が流行しました。そのルーツは大正末期から隆盛した「新民謡」にあります。それぞれの土地の有様を、野口雨情(のぐち・うじょう)や北原白秋(きたはら・はくしゅう)といった優れた詩人たちが表現し、その詩に西洋音楽を学んだ作曲家たちが曲を付け、新民謡は多くの人々の心をつかみました。

新民謡の中心人物だった野口雨情という詩人。どれほど凄い人かという「十五夜お月さん」や「七つの子」「赤いくつ」などを作詞した人物と言えお分かりでしょう。さて、この野口雨情は1937(昭和12)年の夏、内海に逗留し、内海の景観を詠み込んだ「内海たんと節」を作りました。その一節の「山の六本松 数えりゃ五本 はぐれ松の木ァ どの木やら」(当時5本あったが今は失われた)を山本譲は絵にしました。

野口雨情の詩は、単なる大衆歌謡ではありません。若い頃、思想家の内村鑑三(うちむら・かんざう)を知った野口は、内村が提唱した郷土学、郷土の地理を知り風土を保護するという思想に共鳴しています。

自らの住む場所を大切にすること、そこから見えてくることを大切にしてほしい、と願った様々な先人の思いが「内海たんと節」には込められているのです。

いなし 復興のいま

* 「いなし」とは 「い=市原」「な=中畑」「し=下垣内」3地区の頭文字

2018年7月6日に起きた西日本豪雨災害で、地域全体を土砂災害に見舞われたいなし地区の復旧現場。5年をめぐに始まった復旧工事ですが、悪天候など障害もある中、工夫を重ね着々と進んでいます。

市原地区 ほ場整備



市原／中村自治会長
「やっとここまでできた」



中畑地区 砂防ダム



中畑／小林自治会長
「計画通りに進めていただいて有難い、見守るのみです」



下垣内地区 河川工事



下垣内／今本自治会長
「これほど早く出来るとは思っていなかった」



ある日、安浦郵便局横の水路にカワナがたくさんのを発見 ♡ 春先よりホタルの幼虫はカワナを盛んに食べて成長し6月上旬になると飛び始め、私たちを楽しませてくれます。
“ホタルよ戻ってきて”の願いを込めて野呂川へカワナをお引越し。私たちも復興のお手伝い。

8月6日 平和を願う集い

安浦町 信楽寺



▲平和を語りつぐ92歳の中西巖さん



▲コーラス・ナムナムの歌声にうっとり

安浦町内海に在住の中西巖さんは、15歳の時、学徒動員で旧被服支廠倉庫のそばで待機していた時に被爆しました。

仕事を退職して少しでも平和のために役に立ちたいと、広島平和文化センター被爆体験証言者になり、国内で被爆証言や、ピースボートに乗って100人の被爆証言者とともに全世界に被爆の実相を伝えるなど、様々な所で活動してきました。

ですが、西日本豪雨災害のとき被災し、その後、病気の再発などありましたが、92歳になった今なお、広島までJRで行き、現在は旧被服支廠の保全を願う懇談会の代表として証言活動を続けています。

旧被服支廠の建物は、一部解体の方針も出ましたがねばり強い運動の結果、県と国が所有する全4棟が残ることになりました。しかし、活用できるまでには、耐震強化工事や整備のための資金も必要です。

「ウクライナなど世界には戦争が絶えませんが、戦争をなくすには、世界中の人が心と心をつなぐこと」と、中西さん。参加者には、子どもたちもいました。

中西巖さんの平和を願う心を受け継ぎ、私たちも行動を起こしましょう。

散策のすすめ ◆内海巖島神社(平木明神社)と^{むく} 棕の大木



呉市営安浦ひらきアパートの北側に内海巖島神社(平木明神社)があります。一説によると1279(弘安2)年伊予国、河野通有^{こうの みちあり}がこの地に船用材が多くあるので、この平木の地で船を造船させ、この明神を守護神にしたと伝えられています。その時代には、山際までが、海だったと思われます。

境内には棕の大木があります。古い記録によれば、1705(宝永2)年の書上帳に「大木にして御留木」と記されており、全長約35m胴周り約5.5m、樹幹には腐敗部があり洞窟のようになっていて、樹齢は500年以上であると思われます。また、詩人野口雨情が昭和初期に安浦の地に来たときに創作した安浦たんと節の一節に「棕の大木たよりに藤はゆられながら花が咲く」と詠まれています。この大木は、安浦のうつりかわりなど、すべてを見てきています。もしも、この木とお話ができるのなら、現在の私たちの生活など、どんな想いで見ているのか聞いてみたい気がします。

おどめき
御留木

特定の樹木を指定して伐採を領主が制限したり禁止すること

